

大田区産業振興ビジョン（素案）に関するパブリックコメント実施結果

1 意見の募集期間

令和5年11月21日（火）から令和5年12月12日（火）まで

2 意見の提出者数、提出件数、意見の内訳

(1) 意見者数 14名（内訳：FAX11名、電子申請3名）

(2) 意見数 21件

(3) 意見の内訳 以下のとおり

No	分類	件数
1	ものづくり産業について	6件
2	商業・観光産業について	1件
3	全産業について	6件
4	計画全般について	8件
合計		21件

3 提出された意見要旨と区の考え方

ご意見については、趣旨を損なわない範囲で要約または一部を抽出しています。

No	分類／ 該当章	意見要旨	区の考え方
1	ものづくり産業／ 3章 5章3（2）	「目的」・「将来像」について、実現すれば良いと思う。 「変革」・「連携」について、課題と分析にある通り、グローバル化や大企業の生産拠点の海外進出の結果、仕事が激減し、高い技術力も失われた。自己変革による経営力の強化、他社との連携、業績の向上に挑み続ける企業はごく一部に限られているのが現状で、廃業寸前で変革の努力をしようのない業者に生き延びるための直接支援が必要ではないか。研究開発企業の誘致、ハブ企業との連携で、区内製造業への仕事の発注がどれほど見込まれるのか全く不透明ではないか。	3章に示すとおり産業取り巻く環境が変化している中、自己変革による経営力の強化、他社との連携、業績の向上に取り組むことが難しい状況にある企業がいることは認識しております。5章3（2）で示すとおり、多様な基盤技術を有する小規模なものづくり企業の高密度な集積を維持するための取組を推進することで、産業集積の維持・発展を図ります。 なかでも、貴重な技術が途絶えてしまうことのないよう、後継者育成や事業承継等へのサポート、区内企業への発注開拓、新技術開発等への支援についても引き続き強力に進めてまいります。

No	分類／ 該当章	意見要旨	区の考え方
2	ものづくり産業／ 3章 5章3（2）	<p>この「夢の」ビジョンは一言でいえば羽田イノベーションシティに代表される一部大企業の稼ぐ力を応援し、自己変革できない（したくてもできない）大多数の中小零細業者は支援をする価値すらないとしていることに等しい。</p> <p>大田区の産業の主役は従業員1人から9人以下の零細企業だ。このビジョンでほんの一握りの企業は「稼ぐ力」をつけたとしても、大多数の零細業者・企業が直面している経営の危機に対する有効な支援策にはならない。大田区が「目指す姿」の産業の町づくりの行きつく先は、大企業が栄えて大多数の中小零細企業が衰退する道だ。このビジョンを知って「これで自分たちの商売もうまくいく」と感じられる業者がどれくらいいるか。</p> <p>大田区は令和6年度、5年に一度の実態調査を行うとしている。今ある大田区の産業実態をつかまずに産業ビジョンをつくることに不審を抱く。例えば後継者問題で「早急に手を打つ必要がある」と指摘した前回の実態調査からどのような教訓を導き出し、施策に生かしてきたのか、検証されていると感じない。</p> <p>中小零細企業の存在そのものが社会貢献だ。苦境にあえぐ業者の実情を踏まえ、経営努力の方向を限定せずに、今行っている経営努力にも直接支換するなどし、倒産・廃業を食い止める産業ビジョンにしてほしい。</p>	<p>大田区にある製造業や卸売業・小売業等の事業所の7割以上が1～9名以下になります。3章に示した産業取り巻く環境が変化している中、経営の危機に直面している企業も多いと認識しております。また、5章3（2）で示すとおり、大田区の強みは多様な基盤技術と職人・匠のノウハウや知恵に支えられており、それが日本のもものづくり力の根源であると捉えております。さらに、本ビジョンでは、3つの基本方針のひとつを「集積」とし、多様な基盤技術を有する小規模なものづくり企業の高密度な集積を維持するための取組を推進してまいります。</p> <p>大田区産業のまちづくり条例において、中小企業の経営の安定・改善、融資及び助成を基本施策の一つに位置付けております。大企業だけが栄えるのではなく、中小企業・小規模事業者とともに活性化していくことができるよう、本ビジョンにおいて、大田区産業の目指す姿と施策の方向性を示しつつ、今後も区内企業の実態を把握することで大田区産業の振興を図ります。</p>

No	分類／ 該当章	意見要旨	区の考え方
3	ものづくり産業／ 4章	<p>4章の課題・整理・分析について、抽象的な言葉が並んでいるが、これでは内容が分からない。具体的なところは空港跡地に大手の建設会社が名前を連ねているだけである。</p> <p>大田区のものづくりは小さな町工場から大手までいろいろあり、それが大田区の強みである。産業の空洞化が進む中で、もっと具体的な言葉と多くの予算を望む。</p>	<p>4章では、外部環境の変化に伴い多様化する課題に応じて、その対応の方向性を抽出・分析しました。大田区の強みを高め、弱みを補うことで今後の大田区産業の目指すべき姿を実現するため、「変革」「集積」「連携」という3つの基本方針を導き出しました。中小製造業の集積、大手企業の立地など、多様な産業構造が区の強みであることは我々も同様に考えています。今後も区内企業の実態を把握するとともに、上位計画である大田区基本構想等と連携・整合を図り、産業振興施策の立案、実施により大田区産業の振興を進めてまいります。</p>
4	ものづくり産業／ 4章 5章3（2）	<p>2015年の大田区的全工場と商店街の実態調査の結果がどう生かされているのか、ビジョンからは全く読み取れない。これまでの歴史的経緯等大田の取り組みの評価無くして、的を射た新しい計画はできない。全数調査の結果やその分析を踏まえて、計画を見直すべきと考える</p> <p>また、最大の比重を占める従業員1～4人の零細事業所に対し、どういった支援が必要なのか、「生き残り」の施策を打つのか、具体的な分析・提言が読み取れない。崩壊寸前のおおたの「モノづくり」産業を再生する計画としては、緻密性に欠けると思う。</p> <p>この計画を進めるにしても財政的裏付けがはっきりしない。大田区予算全体の2%程度の産業経済費で、どう具体化できるのか。思い切った財政措置が必要と思われる。</p>	<p>4章で示すとおり、これまで実施した調査結果及び大田区産業を取り巻く環境変化をもとに、現状の課題、大田区産業の強み・弱み等を分析しました。これを踏まえ、5章3（2）で示すとおり、大田区の強みは、従業員数1～4名の企業が持つ多様な基盤技術と職人・匠のノウハウや知恵に支えられており、それが日本のものづくり力の根源であると捉えております。さらに、本ビジョンでは、3つの基本方針のひとつを「集積」とし、多様な基盤技術を有する小規模なものづくり企業の高密度な集積を維持するための取組を推進してまいります。</p> <p>具体的な取組については、上位計画である大田区基本構想等と連携・整合を図り、当ビジョンの5章で示す方向性を実現すべく、必要な予算を確保して事業実施に努めてまいります。</p>

No	分類／ 該当章	意見要旨	区の考え方
5	ものづくり産業／ 5章3（1）（2）	製造業は、区内で1～9名の工場が78%にあたる。ほとんどが、凶面を貰って仕事をしている。いきなり「自ら変革し、挑み続ける取り組みを支援する」では実績を見ていないも同然である。30年以上も、単価が上がらない状態が続いている。78%の工場を考えて欲しい。	5章3（2）で示すとおり、大田区の強みは、従業員数1～9名の企業が持つ多様な基盤技術と職人・匠のノウハウや知恵に支えられております。これは単なる下請け製造に留まるものではなく、その集積が、日本のものづくり力の根源であると捉えております。 本ビジョンでは、3つの基本方針のひとつを「集積」とし、多様な基盤技術を有する小規模なものづくり企業の高密度な集積を維持するための取組を実施します。 加えて、5章3（1）「変革」で示すとおり、区内企業の稼ぐ力の強化、高付加価値化のための支援を推進してまいります。
6	ものづくり産業／ 5章3（2）	製造業は、区内の売上高で43%に上っている。そして、東京都内でも第一位の売上になっている。「仲間回し」ネットワークを、継ぎ・守り、産業集積を維持・発展をうたうのであれば、その言葉通理に「大田区」が1～9名の工場78%を尊重することを望む。小企業にも光を当てるビジョンにしてもらいたい。	5章3（2）で示すとおり、大田区の強みは、従業員数1～9名の企業が持つ多様な基盤技術と職人・匠のノウハウや知恵に支えられております。これは単なる下請け製造に留まるものではなく、その集積が、日本のものづくり力の根源であると捉えております。 本ビジョンでは、3つの基本方針のひとつを「集積」とし、多様な基盤技術を有する小規模なものづくり企業の高密度な集積と仲間まわしネットワークを維持・強化するための取組を推進してまいります。

No	分類／ 該当章	意見要旨	区の考え方
7	商業・観光産業／ 2章1 5章4	卸売・小売業は、区内の売上高で2位、事業所数1位、従業員数1位である。いま、物価高騰で痛めつけられた上に、客足はコロナの前から程遠い。この従業員数を確保していくには、インバウンド需要だけでは持たない。1位・2位に見合う経済対策を要求する、発信する大田区に期待する。	卸売・小売業は大田区産業の中で大きな割合を占め、区内の雇用を含めた地域経済を支えています。従来より、大田区の産業振興では、商店街や個店の支援を継続的に実施してまいりました。引き続き、大田区の本ビジョンが掲げる「変革」「集積」「連携」という基本方針に則り、産業振興を推進するとともに、シティプロモーションの担当とも連携し、施策の発信に努めてまいります。
8	全産業／ 5章3(1)(3) 5章4(1)(3)	<p>外部環境の変化を敏感にとらえ変革を推進する方針は、他地域に先んじる有効な施策ではないかと思った。稼ぐ力を創出し、豊かな地域経済を構築することで更に発展できるという大きな期待を持つことができた。</p> <p>変革、集積、連携を支援する方向性にも賛成だ。自己変革のため、多くの事例を創出し、連携により拡大する。これまで構築してきたデジタル基盤がこれらを支えると思う。今後は、このデジタル基盤を基軸に大田区外、国外へと広がっていきけるステージに来たのではないか。デジタル基盤に人、モノ、情報が集まり、産業・商業がこれらを活用し更に稼ぐ力を構築できるようになると思う。</p> <p>大田区の特性を生かして大きく発展するためにはDXは不可欠であるため、力強く推進してほしい。</p>	本ビジョンが掲げる「変革」「集積」「連携」という基本方針に則り、5章3(1)(3)、4(1)(3)で示すとおり、区内企業の自己変革による稼ぐ力の強化につながるデジタル化及びデジタル環境等を活用した国内外の多様な主体との交流・連携を推進してまいります。

No	分類／ 該当章	意見要旨	区の考え方
9	全産業／ 5章3(3) 5章4(3)	<p>事業者数が増大する生活サービス業（特に医療・福祉・介護など）への施策が欲しい。</p> <p>福祉部門や教育部門などと産業振興部門が連携できる分野もあると思う。</p> <p>大学、病院などの研究機関や民間企業などと協働で生活サービス業の先進化・高度化・効率化を検討してほしい。</p>	<p>5章3(3)及び4(3)で示すとおり、産官学金連携の推進、分野を超えた多様な主体との交流促進・ネットワーク構築、(医療・福祉・介護等分野における)実証実験の推進が重要であると捉えております。羽田イノベーションシティでの実証実験をはじめとして、行政が関与することでより一層社会課題解決を推進するとともに、新サービスを創出するスタートアップとの連携支援などを通じて、地域(区民)ニーズを反映した産業集積の維持・発展により、区民生活の向上に貢献してまいります。</p>
10	全産業／ 5章3(2) 5章4(2)	<p>高度成長期に大田区工業は発展し、製造品出荷額も都内第一位を継続して戦後の日本経済発展に貢献した。また、蒲田は新宿歌舞伎町に次ぐ第2位の料飲街となり、区民の憩いの場として賑わい、小売、運輸等多くの業界で好況となり明るく活発な大田区となった。しかし、大企業の横暴と新自由主義、リーマンショックなどの影響で、町工場が2日に1軒廃業する事態となった上に、新型コロナ被害があった。</p> <p>分析の通り、大企業の国内回帰が求められていると思うが、産業の空洞化、非正規雇用の拡充、低賃金加えて、ぼろ儲けの大企業に軽く、中小零細に増税となるインボイスの導入など、中央政府の産業経済政策が今日の不況の根本ではないか。</p>	<p>世界情勢の目まぐるしい変化、新型コロナウイルス感染症の影響等により、区内企業を取り巻くビジネス環境の厳しさが増す中、5章3(2)4(2)のとおり、多様な基盤技術や職人・匠のノウハウや知恵の維持・承継、地域の賑い創出のための支援を推進してまいります。</p> <p>政府の経済対策に対するコメントは差し控えますが、地域に最も近い基礎自治体として、区内企業の現状を把握するとともに、意見交換等をさせていただきながら、産業振興施策の立案、実施に努めてまいります。</p>

<p>11</p>	<p>全産業／ 5章1(1) 5章3(2) 5章4(2)</p>	<p>ビジョンには区民が全く「不在」ではないか。 区内製造業は、日本の産業を、高い技術力とその集積の力で支え、雇用と消費活動の面でも地域活性化に大きく貢献してきた。しかし、大田区は「区内産業の中核」の衰退を、高い技術力の集積の崩壊の危機を、何ら具体的な支援の手を打たず、中央政府の意向を盾に地方自治体の果たすべき役割を放棄し、他人事のように傍観していた。</p> <p>商店街も、実質賃金が下がり続ける消費不況のもと多くが姿を消している。何とか頑張っている商店街もシャッターの閉まったお店が目立つ。料飲関係を中心にチェーン店・フランチャイズ店が軒を連ね、地元で生活の基盤を置く個店は数えるほどで、地域住民との一体感は消滅の危機に在る。消費者の目は地元を離れ大型量販店や通販に向いている。</p> <p>このような状況の下で外国企業・大企業などを「あらたなパートナー」といわれても、大田区の富を外国企業・大企業に売り渡すものとしか受けとれない。</p> <p>私は、抜本的なベンチャーベンビジネスへ特化した支援、事業者の自己努力・自己責任の押し付けは政策として破たんが証明されたものと考えている。中小零細企業の衰退と高い技術集積の消滅により大田区の「基幹産業」の更なる発展を閉ざすものだと思う。区民の力を差別し、選別し、切捨てるのではなく、十分頑張っている大田区民の能力を信頼し、中小零細企業を差別や選別するのではなく、基本的には全ての企業を支える政策に転換することを提案する。多様性の中からこそ大きな可能性が育つ。製造業の隆盛は大きな消費を産み出す。大田区の活性化につながる。</p> <p>若い世代が大田区の物造りの将来に明るい希望が持てるような製造業の復興を実現するためにも、今日を生きるのに精いっぱい業者への緊急の支援を最後に訴えて意見表明とする。</p>	<p>ご意見として承りました。</p>
-----------	--	---	---------------------

No	分類／ 該当章	意見要旨	区の考え方
12	全産業／ 5章3 5章4	言葉の意味が分からない。海外に仕事を出すから仕事が無くなる。羽田空港(一般)の人が入って仕事出来るのか。	世界的なものづくりサプライチェーン（製品の原材料・部品の調達から販売に至るまでの一連の流れ）の見直しが進んでおり、日本企業の国内回帰や海外企業の国内立地の検討が進んでいます。また、羽田空港を通じて、海外からの外国人旅行客が増加しています。こうした外部要因を区内企業の稼ぐ力に寄与させていくことが重要と考えます。5章3、4で示すとおり、区内企業の強みである提案力と仲間まわしネットワークを生かした新分野進出や販路拡大を図ると共に、地域の商店街、個店、観光資源等の事業者が連携することで地域の魅力を高め、来訪者の消費を拡大することで、稼ぐ力の強化のための取組を推進してまいります。
13	計画全般 （人材活用）／ 3章2 5章3（2）（3） 5章4（3）	女性・若者を活かす施策が欲しい。 大学などの教育機関を誘致し、女性や若者が集まる施設や仕組みが必要である。 「住みたい」「働きたい」に「学びたい」を加え、将来を考える地域ビジョンづくりのため「学び」と「活動（行動）」の循環を促がす仕組みも必要である。	ご指摘の多様な人材の活用が区内企業の活力につながるという考えは全く同感です。 3章2、5章3（2）、（3）及び4（3）で示すとおり、少子高齢化・労働力人口が減少する中、女性や若者を含む多様な人材活用の重要性が高まっており、様々な主体との交流・連携の推進が重要であると捉えております。 区内の大学、専門学校等の教育機関との連携・協働を検討するとともに、羽田イノベーションシティ等を拠点とした大学等とのネットワークの構築、また、企業の多様な働き方への対応を促進することなど、今後のさらなる取組につなげてまいります。

No	分類／ 該当章	意見要旨	区の考え方
14	計画全般 (人材活用) / 3章2 5章3(2) 5章4(2)	<p>若年(例:35歳以下且つ大田区での勤続10年まで)を対象とした家賃補助的なものの創設と大々的なアピールを希望する。</p> <p>大田区の多くの会社で若者が少ない、来ない状況と聞く。若者が住み、若者が働くことが必要である。</p> <p>実現させるための大きな課題の一つは、経済的事情(給与、手取り)である。</p> <p>羽田空港に加え、渋谷、新宿、秋葉原にも近いことは地方の若者へのアピールになるのではないかと考える。「衣食住は大田区で。週末の趣味、遊びで都心に出るにも最高の場所」という点はアピールポイントだと考える。</p> <p>また、大田区で働いた若手が転職をする際に、大田区の他社で働けるようなサポートも必要だ。大田区以外への流出は大田区にとって損失である。</p>	<p>人口減少、少子高齢化の社会において、若者の定着は非常に重要な課題です。3章2、5章3(2)及び4(2)で示すとおり、若者等の人材確保支援、製造業若手人材への技術・技能継承、商店街を含めた地域の次世代を担う若手人材の育成等が重要であると捉えております。</p> <p>大田区の立地優位性、商店街、銭湯等の集積をはじめとする衣食住の充実といった地域特性のPRに努めるとともに、多様な人材が区内に定着するための取組について、引き続きしっかりと検討してまいります。</p>
15	計画全般 (まちづくりとの連携) / 3章3 5章3(2) 5章4(2)	<p>立地(土地利用)を活かす視点が弱い。</p> <p>産業都市と住宅都市を併せ持つ立地「台地部、低地部、臨海部」の特徴を活かした産業振興としたい。</p> <p>「台地部」は優良な住宅環境を活かした高度な生活サービス事業を進めてほしい。</p> <p>「低地部」は職住近接型の産業を育成し、生活サービスである介護・医療などと連携するのもよい。</p> <p>「臨海部」は、空港や港湾を活かした物流や都市型環境循環産業の研究機関などを誘致し既存事業と協働するのがよい。「国際特区」制度も使用したい。</p>	<p>多種多様な用途地域が存在し、そこに定着した様々な産業があることは大田区の特徴です。</p> <p>土地利用の大きな方向性は都市計画マスタープランに定められており、そこで活躍する企業をより多くサポートすることが、産業振興の役割であると認識しております。</p> <p>3章3、5章3(2)及び4(2)で示すとおり、大田区の地域特性を踏まえ、地域(区民)ニーズを反映した産業集積の維持・発展により、区民生活の向上に貢献してまいります。</p>

No	分類／ 該当章	意見要旨	区の考え方
16	計画全般 (まちづくりとの 連携) / 3章3 5章1 5章3(2) 5章4(2)	大田のまちづくりが、「ものづくりまち」にふさわしい方向になっていない。相互の関連性をもっと掘り下げて考えるべきである。 結論的には「机上の空論」にならないか、心配が先立つ。	5章1で示すとおり、大田区は産業都市と住宅都市としての顔を合わせもち「稼ぐ力を創出し、豊かな地域経済が未来に引き継がれるまち」の実現を目指してまいります。 多様な業種の集積を今後も維持・発展するとともに、「ものづくり」が大田区産業の屋台骨であり続けられるよう、積極的にサポートしてまいります。
17	計画全般 / 5章3(1)	今必要なのは、私たち業者と区の懇親の場を設け、現状と不況打開の道筋を共有し、実現の方向を共に考える区民参加のまちづくりではないか。	5章3(1)のとおり、不確実性の高い厳しい経済状況を踏まえ、日頃より区内工業団体等との意見交換や企業訪問、景況調査等を実施することで区内企業の声を聴いてまいります。 不況打開を目的とする皆様との懇談の場にも定期的に参加し、前向きな議論を行うなど、企業・団体等の課題に対して寄り添う伴走支援を今後も実施してまいります。

No	分類／ 該当章	意見要旨	区の考え方
18	計画全般／ 3章7	<p>私は 2022 年 8 月に実際に羽田イノベーションシティへ行ってきた。まず、人がガラガラだった。全自動と言いながら結局人がコントローラーで動かしている全自動車や、大田区と何の関係があるのかわからないネズミの細胞の展示。さらに受発注窓口は閉まっていた。とても大田区の産業を振興させるような施設には見えなかった。あのような物を作るなら、物価高騰で苦しんでいる区民・中小業者に直接支援するような施策を考えるべきだ。</p>	<p>3章7で示すとおり羽田イノベーションシティが立地する羽田空港跡地第一ゾーンは、世界と地域をつなぐゲートウェイとして国内外のプレイヤーが互いに交流し、新たなビジネスやイノベーションを創造するとともに、国内外に日本のものづくり技術や日本各地の魅力を発信する「新産業創造・発信拠点」の形成を目指しています。街区内に区が設置している HANEDA×PiO では、区内企業をはじめ、国内外大手企業・中堅企業、大学・研究機関、団体、起業家・スタートアップなど、多くの主体や人が集結する拠点としての機能を強化するとともに、大田区産業振興協会が常駐し、区内企業との連携などの相談に随時対応しています。今後も区内へと波及・還元する取組、匠の技との連携、オープンイノベーションを促進する取組等、中小企業振興に資する取り組みを進めてまいります。</p>
19	計画全般／ 5章1(1)	<p>大田区の最大の強みである製造業・商業・観光等産業集積を維持・発展すると書かれているが、大田区の商店街・町工場を見ても空店舗やチェーン店に変わり、前のような賑わいはみられない。工場は仕事がなく、後継者もなく、昨今の物価高騰では個人のがんばりにも限界があると思う。大田区の将来を考えるとお金の使い方が本当に区民の為になるのか心配である。区民の税金は区民が住んでいて良かったと思える防災や福祉の向上に使ってもらいたい。区民の声を聞く政策をとれば大田区は住み安く産業も発展すると思う。一番大変な所に細やかな支援をお願いしたい。</p>	<p>5章1(1)で示すとおり、産業都市と住宅都市としての顔を持ち、多数の人口を抱える大田区においては、事業所と住宅が近接し、企業人と区民の顔を併せ持つケースも多くあります。産業振興によって区民の雇用を守り、また、区民生活向上によって人材確保を図るという循環を通じて、「稼ぐ力を創出し、豊かな地域経済が未来に引き継がれるまち」の実現を目指してまいります。</p>

No	分類／ 該当章	意見要旨	区の考え方
20	計画全般／ 5章2 5章3(3) 5章4(3)	<p>「ビジョンの概要」の策定目的に「羽田イノベーションのまち開き(2020年)により、大企業、スタートアップ、海外企業など新たなプレーヤーが大田区に集まる基盤ができた」との記述があるが、懐疑的にならざるを得ない。もっと、俯瞰的に、現状を緻密に分析する必要があるのではないか。大田の現状は、一施設の存在で展望が開けるようなものではないと思う。</p>	<p>5章2のとおり、本ビジョンは「変革」「集積」「連携」の観点から、産業振興の方向性を描いたものであり、羽田イノベーションシティは、「連携」を強化するうえで重要な拠点となります。世界と地域をつなぐゲートウェイとして国内外のヒト・モノ・情報を集積させる「新産業創造・発信拠点」の形成を目指すとともに、区が運営する区施策活用スペース HANEDA×PiO では、区内企業をはじめ、国内外大手企業・中堅企業、大学・研究機関、団体、起業家・スタートアップなど、多くの主体や人が集結する拠点としての機能を強化しております。</p> <p>ご指摘のとおり、一つの施設の存在ですべての課題が解消される訳ではありませんが、将来の大田区産業を支える基盤のひとつとして、最大限の活用を図ってまいります。</p>
21	計画全般	<p>もっと、中小零細の事業所当事者の声を聴くべきだと考える。管理職全員、自らが零細事業者になり、足を運んで、「生の声」を聴いて、検討を深めるべきだと考える。「借り物」の考えはあまり力にならない。かえって、矛盾を深めると思う。また、対象事業所に働く労働者についての分析を付け加えることも不可欠ではないか。その労働条件等の実態把握、分析が計画の充実につながるものと考えている。</p>	<p>日頃より区内工業団体等との意見交換や企業訪問、景況調査等を実施することで区内企業の声をお聴きしております。今後も区内企業の現状、労働環境等について積極的に意見交換をさせていただきながら、産業振興施策の立案、実施に努めてまいります。</p>